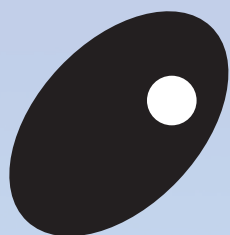


For Safety Driving

Drive Recoder DRE-400



KURUMAME

ドライブレコーダー ビューアーソフト 取扱説明書

KYB

このたびは、「KYBドライブレコーダー クルマメ」をお買い上げいただきありがとうございます。本取扱説明書は、「ドライブレコーダービューアソフト」のご利用方法、操作手順、操作画面、ドライブレコーダーの設定方法について説明しています。ご使用になる前に最後までよくお読みになり、使用許諾契約を十分にご理解の上でご利用下さい。またお読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管して下さい。

対応ドライブレコーダーについて

本書は下記のドライブレコーダー用ビューアソフトに対応しております。

ビューアソフト対応：DRE-400

ご注意

対応するドライブレコーダーは、2009年9月現在です。

対応するドライブレコーダーの詳細は、弊社ホームページにてご確認ください。

∞ 目 次 ∞

対応ドライブレコーダーについて	2
ご注意	2
ドライブレコーダービューアースoftware使用上のご注意	5
健康上のご注意	5
取り扱い上のご注意	5
保管上のご注意	5
運用上のご注意	6
ユーザー使用許諾契約 User License Agreement	7
ご使用の前に・・・	9
ドライブレコーダービューアースoftwareとは	9
主な機能	9
動作環境	9
ドライブレコーダー使用開始までの流れ	10
SDHC カードについて	10
SD カードリーダーの接続	10
SDHC カードの初期設定について	10
インストール方法	11
ビューアースoftwareのインストール前の準備	11
ビューアースoftwareのインストール	12
起動と終了	13
ビューアースoftwareの起動は	13
ビューアースoftwareの終了は	13
削除	14
「セットアップウィザード」の起動は	14
ビューアースoftwareの削除は	14

車両の登録とドライブレコーダーの機能設定	15
設定手順	15
①「車両登録番号」	15
②「アプリケーション表示設定」	16
③「車載機設定」	17
設定項目の説明	17
G センサ補正方法	19
記録したデータの読み込み	20
記録データファイル読込	20
記録データファイル選択	22
メイン画面について	23
再生画面について	24
操作・表示一覧	24
トラブルシューティング	27
ビューアーソフト起動時のトラブル	27
画像ファイルのトラブル	27
用語解説	28
GNU LGPL 適用ソフトウェアにつきまして	28
パッケージリスト	28
ソースコードのご使用にあたって	29
著作権について	29
LGPL のライセンスに関する宣言書（抜粋）	29
サポートカルテ	32
製品保証書	33

ドライブレコーダービューアソフト使用上のご注意



警告

このディスクは「CD-ROM」です。一般オーディオ用CDプレーヤーでは絶対に再生しないで下さい。大音量によって耳に被害を被ったり、スピーカーを破損する恐れがあります。



注意

プラスチックケースの上に重い物を置いたり落としたりしないで下さい。ケースが破損して、けがの原因になることがあります。

健康上のご注意

- ごくまれに強い光の刺激や点滅、モニターなどを見ていて、一時的に筋肉のけいれん・意識の喪失等の症状を起こす方がいます。こうした経験のある方は、このソフトを使用する前に必ず医師と相談して下さい。また、使用中にこのような症状が起きたときは、すぐに使用をやめ、医師の診察を受けて下さい。
- このソフトを使用するときは、部屋を明るくし、なるべくモニターから離れて下さい。また、健康のため、1時間ごとに10~20分間の休憩をとり、疲れている時や睡眠不足での使用は避けて下さい。

取り扱い上のご注意

- ディスクは両面とも、指紋、汚れ、キズ等を着けない様に取り扱って下さい。
- ディスクが汚れた時は、メガネ拭きの様な柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽く拭き取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。
- ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。
- ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは危険ですから使用しないで下さい。
- ディスクは音楽用のCDプレーヤー等で再生しないで下さい。大きな音が出て聴力に障害を与えたり、スピーカーを損傷する恐れがあります。

保管上のご注意

- 直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。
- ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。

運用上のご注意

記録について

- ドライブレコーダー本体はそれぞれの本体設定方法に基づいて実施します。設定状況によっては、映像が記録されない場合があります。

ドライブレコーダー消耗品について

- SDHC カードは消耗品です。耐用年数は毎日使用した場合約一年間です。一年間ごとに弊社指定品と交換して下さい。

ユーザー使用許諾契約 User License Agreement

ユーザーの皆様へのご注意：

本ユーザー使用許諾契約（以下「本契約」）はお客様と日本国の KYB 株式会社（以下「KYB」）との間の契約書であり、KYB が提供する本ソフトウェア（以下に定義）をお客様がインストールまたはご使用いただく場合の条件を規定するものです。必ず内容をよくご確認下さい。お客様がこのパッケージを開封されますと、お客様によって本契約のすべての条項に同意いただいたものとみなさせていただきます。

下記の条項に同意できない場合は、本ソフトウェアをインストールまたは使用することはできません。また、下記の条項に同意できない場合において、システムを含めた装置に関する取り外し等の実質的作業が発生した場合の費用はお客様のご負担となります。

本契約において「本ソフトウェア」とは、本契約と一緒にお客様に提供された CD-ROM の記憶媒体に含まれている (i) KYB または第三者のアプリケーションプログラム（以下「アプリケーションプログラム」）、(ii) デジタルイメージ、またはその他の創作物（以下「ストックファイル」）、(iii) 関連する説明資料（以下「ドキュメンテーション」）、などを含みます。本契約において「許容コンピューター台数」とは左上に表記されている台数を指します。

1. 使用範囲

1.1 お客様はアプリケーションプログラムを許容コンピューター台数までのコンピューターのハードディスクまたはその他の記憶装置にインストールして使用することができます。

1.2 お客様はバックアップ用に本ソフトウェアを 1 つ複製することができます。ただし、お客様のバックアップ用の複製物はいかなるコンピューターにおいてもインストールあるいは使用されないことを条件とします。

2. 著作権

本ソフトウェア（その複製物も含む）は KYB 及びそのサプライヤーの所有物であり、本ソフトウェアの構造、編成、コードは KYB 及びそのサプライヤーの業務上の重要な機密事項にあたります。本ソフトウェアは日本国の著作権法ならびに国際条約の保護を受けており、書籍その他の著作物と同じに扱わなければならない性質のものです。本ソフトウェアの複製は「使用範囲」の項で定めた場合を除いて禁じられています。本契約にもとづいて作成された複製物には、本ソフトウェア上またはその中に明記されている著作権表示その他の財産権の表示と同じものを含めなければなりません。お客様は、本ソフトウェアを変更、改作、翻訳、リバースエンジニア、デコンパイル、ディスアSEMBルしないこと、またはその他の方法でソースコードを解明しようと試みないことに同意します。商標は、商標の所有者名を明示し、容認された商標慣行に従って使用されるものとします。商標の使用は、本ソフトウェアによって生成された印刷出力の識別を目的とする場合に限られます。いかなる商標であつても、こうした使用によって当該の商標の所有権がお客様に付与されることはありません。上記の場合を除いて、本契約は本ソフトウェアに関するいかなる権利をも付与するものではありません。本契約は本ソフトウェアの使用に係わる条件を規定するもので、本ソフトウェアの売買を規定するものではありません。

3. 譲渡

お客様はいかなる場合も本ソフトウェアを貸与、レンタル、リース、使用許諾することはできません。本ソフトウェアの譲渡については、お客様が KYB 所定の手続に従って申請され、その申請手続において (1) お客様がご自身の名義ですでにユーザー登録をしていること、(2) お客様より譲受ける第三者が本契約の諸条件について書面により同意していること、(3) 本ソフトウェア、すべての旧バージョン（本ソフトウェアが前バージョンの修正版、アップグレード版、アップデート版または追加版（以下総称して「アップデート版」）である場合）、及びそれらの複製物の全てと本契約上の地位をお客様が当該第三者に譲渡または移転すること、ならびに (4) お客様が譲渡しなかった複製物の全てを破棄することについてお客様が同意または証明した場合、に限り KYB が認める態様にて譲渡することができます。

4. 複数環境ソフトウェア / 複数言語ソフトウェア / 複数媒体ソフトウェア / 複製物 / アップデート版

本ソフトウェアが複数のプラットフォームや言語環境に対応する場合やお客様が2種以上の記憶媒体に収められた形で本ソフトウェアを受け取った場合、またはお客様がその他の方法で本ソフトウェアの複数の複製物を受け取られた場合には、本ソフトウェアのすべてのバージョン、記憶媒体及びコピーが使用されることになるコンピューター台数は許容コンピューター台数を上回ってはなりません。ご使用にならない本ソフトウェアのバージョンまたは複製物、またはご使用にならない記憶媒体に収められた本ソフトウェアのレンタル、リース、使用許諾、貸与または譲渡はできません。本ソフトウェアがアップデート版である場合、お客様が前バージョンについて正規ライセンスを取得していないときはいかなる場合においても本ソフトウェアをインストールして使用することはできません。お客様が前バージョンについて正規ライセンスを取得している場合に限りお客様は本契約に従って本ソフトウェアを使用できるものとし、前バージョンについては本ソフトウェアの入手時から90日間、前バージョンからアップデート版の使用へ移行することを目的として使用を継続することができます。この期間を過ぎた場合お客様はアップデート版をインストールする以外の目的で前バージョンを使用することはできないものとし、必ず前バージョンを破棄していただくものとします。

5. 保証の放棄

本契約第7条に定める限定保証を除いて、KYB及びそのサプライヤーは、第三者の権利の不侵害、商品性または特定目的への適合性に関するいかなる明示または黙示の保証も致しません。黙示の保証は、それがなされたものと見なされる場合でも、すべて1年間に限られます。KYB及びそのサプライヤーは本ソフトウェアの性能またはその使用により得られる結果について保証いたしません。黙示の保証は、それがなされたものと見なされる場合でも、すべて1年間に限られます。国または法域によっては黙示の保証を除外すること、保証期間を制限することがあり、上記の保証の制限はお客様に適用されない場合があります。法令が認める範囲にていかなる黙示の保証期間も1年間までとします。

6. 免責

6.1 KYBは、本ソフトウェアの使用もしくは使用不能により、お客様または第三者に生じた特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、またはその他の一切の損害（逸失利益、事業の中断、プライバシーの喪失、誠実または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、人身傷害、またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません。）に関して一切責任を負いません。

6.2 KYBは、本ソフトウェアに誤記、脱字等による表記上または内容上の誤りがあつたとしても、本ソフトウェアの交換、補修、代金返還等には応じることはできません。

7. 責任の限度

KYBまたはそのサプライヤーは、本ソフトウェアのインストールまたは使用に関連してお客様に直接的または間接的に発生する一切の損害（ハードウェア、他のソフトウェアの破損、不具合等を含む。また、通常損害、特別損害、結果損害を問わない）について一切責任を負いません。本項はお客様の法律上の権利行使を制限するものではありません。

8. 準拠法及び雑則

本契約は、日本法を準拠法とします。本件ソフトウェアは、日本国の輸出管理法、その他の関連法令・規則で禁止されている国へは輸出されないものとし、またかかる法令・規則で禁止されている状態で使用されないものとします。本契約は、お客様が本契約に違反した時点で自動的に解除されるものとし、この場合お客様は本ソフトウェアのすべての複製物を破棄するものとします。KYBの役員が署名した書面によってKYBがその明確な同意を与えない限り、本契約条項のいかなる変更もKYBに対して効力を有しないものとします。ただし、本ソフトウェアのアップデート版をKYBがお客様に使用許諾する際、KYBはかかるアップデート版の使用に関し本契約の条項を変更することができるものとします。

9. KYB及びそのサプライヤーの権利

操作盤画面及び機能の全てはKYB及びそのサプライヤーの貴重な財産であり、サプライヤーは、KYBとのライセンス契約に加えてそれ自身のライセンス契約条項を行使する権利を保有しています。

10. 管轄裁判所

お客様と弊社の間で紛争が生じた場合は、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

ご使用の前に・・・

ドライブレコーダービューアソフトとは

ドライブレコーダービューアソフト（これ以降、ビューアソフトと表記）は、ドライブレコーダーで記録した画像ファイルを解析・表示を行うためのものです。画像に合わせて加速度を確認できるため、運転技術の向上につながります。

主な機能

(1) 画像ファイルの解析・表示

ドライブレコーダーにて記録された画像ファイルを解析し動画で表示します。車速、エンジンの回転数・加速度も画面上で確認ができます。

(2) 画像ファイルの編集管理

ドライブレコーダーにて記録された画像ファイルを編集管理します。

保存フォルダ・記録日・車両番号別に保存ファイルを検索できます。さらに不要なファイルの削除を行えます。

動作環境

本ソフトウェアを使用するためには、以下の動作環境が必要です。

OS：Microsoft® Windows® XP/Professional Edition/Home Edition/Windows Vista®
日本語版

必要なプログラムまたはアプリケーション：.Net Framework 2.0、DirectX® 9.0 以上

CPU：Intel Pentium4 2GHz 以上または、互換 CPU を持つ IBM PC/AT 互換機
Intel Core 2 Duo（推奨）

メモリ：1GB 以上（推奨）

HDD：ソフトウェアのインストールに 30MB 以上必要。データの保存には 1GB 以上必要。
データ用の HDD の空き領域は十分に確保して下さい。

CD ドライブ：ソフトウェアインストール時に必要。

SD カードリーダー：SDHC カードを読み取る時に必要です。

I/O：USB ポート（SD カードリーダーが PC 本体に付いていない場合は外付けタイプのものを利用）が必要。

※ Microsoft、Windows、Windows Vista、.Net Framework は米国 Microsoft 社の社名及び登録商標です。

※ Intel、Pentium、Core は米国 Intel 社の社名、登録商標及び商標です。

※ SD ロゴおよび SDHC ロゴは、登録商標です。

※ パソコンに SD カードスロットが無い場合は、SD カードリーダーもご用意下さい。

ドライブレコーダー使用開始までの流れ

- ① SD カードスロットが無い場合、SD カードリーダーをパソコンに接続し、SD カードをフォーマット→ [P.10]
- ② 「ビューアソフト」のインストール→ [P.12]
- ③ 取付業者による、ドライブレコーダーの車両への取り付け
- ④ ドライブレコーダーの設定ファイルをパソコンで作成し、作成した内容を SD カードに保存する→ [P.20]
- ⑤ 画像ファイルの保存→ [取付説明書参照]
 - I. ドライブレコーダー本体に電源を入れて（エンジンスタート）記録を開始
 - II. LED が緑点灯したら記録完了
 - III. エンジンキースイッチ OFF にして、SD カードをドライブレコーダー本体より取り出し
- ⑥ データの読み込み
 - I. ビューアソフトの「カード読取」で SD カード内の画像ファイルを読み込み→ [P.20]
 - II. ビューアソフトの「ファイル編集」で画像ファイルを選択し再生→ [P.22]
 - III. カメラの「撮影角度調整」の確認
 - IV. 確認した結果、再度調整が必要であれば④から⑤の手順で設定・確認

SDHC カードについて

ドライブレコーダーに使える SDHC カードは、4GB（SDHC カード）以上です。

推奨 SDHC カード（動作検証済み）：Panasonic 製（RP-SDM）/ モデル（Class4）の 4GB または 8GB

※ miniSDHC カードまたは microSDHC カードは、使用できません。SDHC カードの変換アダプターを使ったご使用も避け下さい。

SD カードリーダーの接続

Windows を起動後に、SD カードスロットまたはパソコンの USB ポートに SD カードリーダーのケーブルを接続して下さい。自動的にドライバのインストールが始まります。

インストール終了後に「マイコンピュータ」を開き「リムーバブルディスク」のアイコンが追加されていることを確認して下さい。

※詳細につきましては SD カードリーダー付属の取扱説明書をご覧ください。

SDHC カードの初期設定について

出荷時に SD HC カードは初期設定されていません。フォーマットを行い、ビューアソフトにて号車等設定後に使用を開始して下さい。

フォーマットには専用フォーマッタを利用して下さい。

http://panasonic.jp/support/sd_w/download/sd_formatter.html

インストール方法

ビューアソフトのインストールは管理者 “Administrators” グループのユーザーで行って下さい。

インストールを始める前には、他の全てのアプリケーションを終了してから実行して下さい。

ドライブレコーダービューアソフトのインストール CD を CD ドライブにセットして下さい。自動インストールが開始します。

※ 自動インストールが開始されない場合、「マイコンピュータ」 → 「CD ドライブ」 → 「Setup.exe」 をダブルクリックして下さい。※ 拡張子が非表示の場合は Setup と表示されます。

「セットアップ」が始まりますので、画面の指示に従って進めて下さい。

ビューアソフトのインストール前の準備

ビューアソフトのインストールをする前に、パソコンには Net Framework2.0 がインストールされていなければなりません。

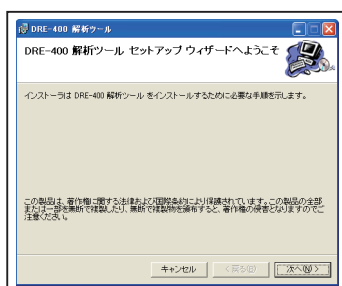
① .Net Framework2.0 のインストール手順



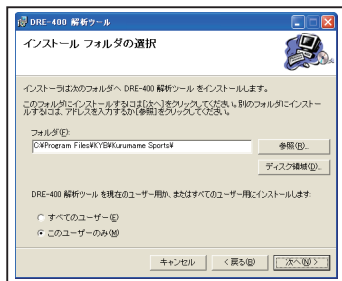
「同意する (A)」にチェックを入れて【インストール (I)】をクリック

データが全てダウンロードされるのを待って【終了】をクリック

ビューアソフトのインストール

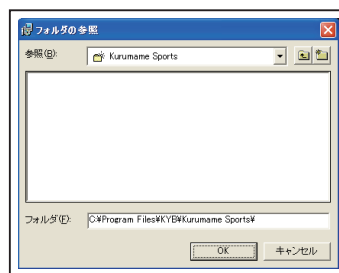


製品の著作権に関して同意を頂けたら
【次へ (N)】をクリック



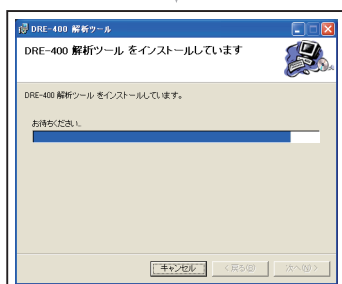
インストール先のフォルダが表示されているフォルダで問題
なければ、ユーザーを選んで、【次へ (N)】をクリック
インストール先の変更する場合は【参照 (R)】をクリック
データのバックアップ等の為に、インストール先は忘れない
ようにして下さい。

【変更 (C)】

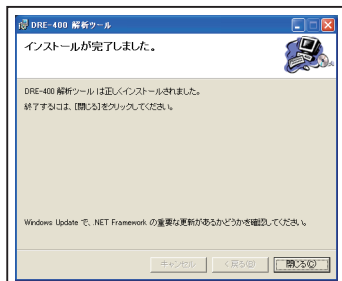


【変更 (C)】をクリックした場合は、
インストール先を指定して【OK】
をクリック

【次へ (N)】



インストールが始まります



【閉じる (C)】をクリック

以上で、インストールは完了です。

起動と終了

ビューアソフトの起動は

「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「KYB クルマメスポート」→「DRE-400 解析ツール」をクリックして下さい。

「カード読取画面」が表示されます。



デスクトップ上にショートカット「DRE-400 解析ツール」を作成すると、アイコンをダブルクリックして起動できます。

ビューアソフトの終了は

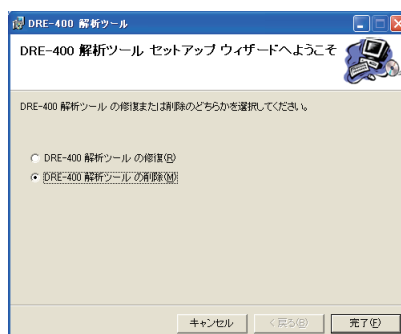
ビューアソフトを終了する場合は、右上の☒をクリックするか、ファイルメニュー内の一番下にあります『終了(X)』をクリックして下さい。

削除

ビューアソフトを削除する場合もセットアップウィザードを使って行います。

「セットアップウィザード」の起動は

付属のインストール CD を CD ドライブにセットして下さい。「マイコンピュータ」→「CD ドライブ」→「Setup.exe」をダブルクリックして下さい。※拡張子が非表示の場合は Setup と表示されます。



ビューアソフトの削除は

- ① 【DRE-400 解析ツールの削除 (M)】を選択して下さい。
- ② 【完了 (F)】をクリックします。

ビューアソフトは、次の方法でも削除することができます。

- ① 「スタートメニュー」→「コントロールパネル」の順でクリックして下さい。
- ② 「コントロールパネル」が表示され「プログラムの追加と削除」をクリックして下さい。
- ③ 「DRE-400 解析ツール」を選択し「削除」をクリックして下さい。
- ④ 「コンピュータから DRE-400 解析ツールを削除しますか？」と表示されますので、【はい】をクリックして下さい。
- ⑤ アンインストールが始まりますので、画面の指示に従って進めて下さい。

車両の登録とドライブレコーダーの機能設定

ここではお客様がお持ちの車両の登録、アプリケーション（ビューアー）の表示とドライブレコーダーの機能設定を行ないます。

設定手順

- ① 「設定メニュー」→「車両登録」にて、車両を識別する為の「車両登録番号」と「ナンバープレート」の追加をします。
- ② 「アプリケーション設定」で車両メーターや回転メーターなどビューアーの表示を設定します。
- ③ 「車載器設定」で該当車両の値を設定し、SD カードに設定したデータを書き込みます。
- ④ SD カードを媒体として、設定したデータを当該車両のドライブレコーダー本体へ書き込みます。

※ 設定データの書き込みは、SD カードをドライブレコーダー本体に挿入し、電源を入れる（エンジンキースイッチを ON する）ことで自動的に行われます。

カメラの増設やトリガ判定閾値等の変更は、③の「車載機設定」[P.17 参照]と④のドライブレコーダー本体への設定を行って下さい。

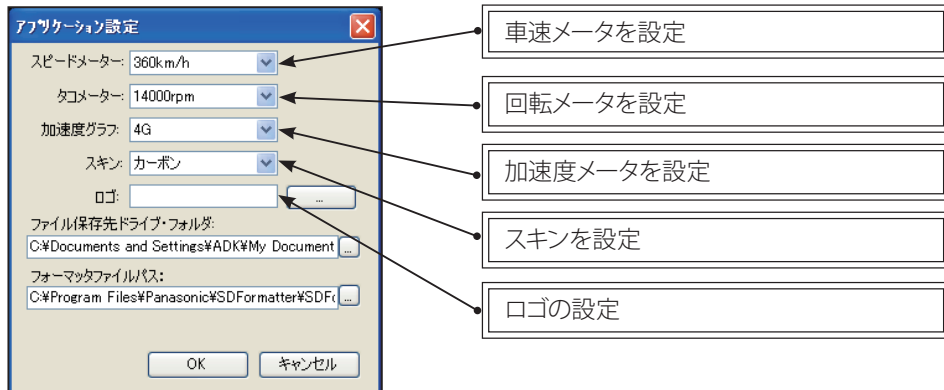
① 「車両登録番号」

「設定メニュー」の中より「車両登録」をクリックして下さい。

- (1) 【車両登録番号】を選択して番号を入力またはプルダウンメニューより選択します。
登録番号を入力：半角数字 8 文字以内で入力します。
プルダウンメニューから選択：予め登録されている番号は、プルダウンメニューから表示して選択できます。
- (2) 【ナンバープレート】を選択して、ナンバープレートの内容を入力します。
ナンバープレートの内容以外の分かりやすい名前を付けることもできます。全角で 20 文字まで入力できます。
- (3) 最後に必ず【登録】をクリックして下さい。
車両登録画面が終了します。

② 「アプリケーション設定」

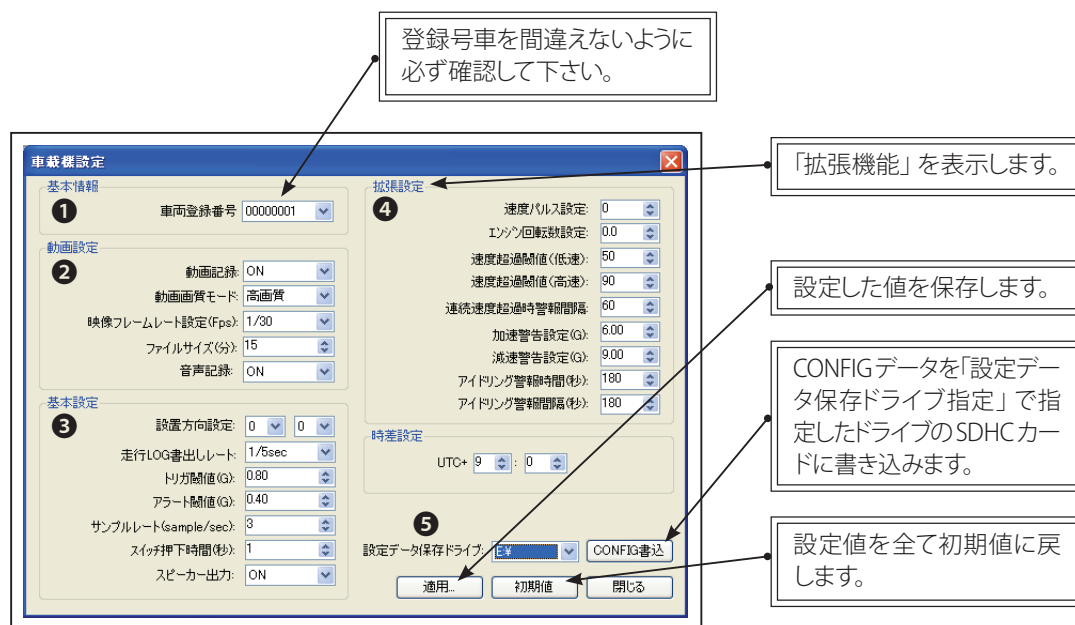
「設定メニュー」の中より「アプリケーション設定」をクリックして下さい。



- (1) 【車速メーター】を 140km/h、180km/h、360km/h から選択します。
選んだ値が最大値となるような車速メーターが表示されます。
- (2) 【回転メーター】を 4000rpm、8000rpm、14000rpm から選択します。
選んだ値が最大値となるような回転メーターが表示されます。
- (3) 【加速度メーター】を 1G、4G、8G から選択します。
選んだ値が最大値となるような加速度メーターが表示されます。
- (4) 【スキン】を選択して、ビューアーのパネル部分の表示形式を選択します。
- (5) 【ロゴ】からビューアー右上に表示されるのロゴの画像を選択します。
- (6) 【ファイル保存先ドライブ・フォルダ】から記録データの保存先のドライブとフォルダを選択します。
デフォルト設定は
[ドライブ名] \Documents and Settings\ [UserName] \My Documents\KYB\
DriveRecViewer
となります。
- (7) 【フォーマットファイルパス】から SDHC カードを初期化するための SD フォーマットを選択します。
- (8) 【設定】をクリックして、設定内容を決定します。
設定をクリックしないと、設定した内容は保存されません。

③ 「車載機設定」

設定項目の説明



「設定メニュー」の中の「車載機設定」をクリックして下さい。

①基本情報	初期値	設定項目	備考
車両登録番号	「データ設定」画面を開いた時は常に、管理IDの番号が一番小さい号車が表示されます。	「号車管理」(P.15)で登録された号車が表示されます。	設定を行なう登録号車をプルダウンメニューから選択して下さい。 ※ SDHCカードリーダーライターに差し込んだSDHCカードが設定を行なう登録号車と一致しているかを確認して下さい。
②動画設定	初期値	設定項目	備考
動画記録	ON	ON・OFF	動画を記録するかどうかをON・OFFで指定します。
動画画質モード	高画質	長時間・高画質	動画を長時間で記録するか高画質で記録かを指定します。
映像フレームレート	1/30	1/30・1/15・1/10・1/5	1秒間に撮影を行なう枚数
ファイルサイズ	15	1～60	映像を何分毎で分割するかを指定します。
音声記録	ON	ON・OFF	音声を記録するかどうかをON・OFFで指定します。

③基本設定	初期値		設定項目		備考
設置方向設定	0	0	0 ～ 5	0 ～ 5	ドライブレコーダーの設置方向 設定する数値につきましては、「G センサ補正方法」(P.19)をご参 照ください。
走行 LOG 書き出し レート	1/5 sec		書き出しなし、 1/5sec、 1/2sec、 1/1sec		走行ログの書出し間隔です。
トリガ閾値 しきいち	0.80		0.01 ～ 10.00		設定した加速度 (G) を超えると記録 を開始します。
アラート閾値 しきいち	0.40		0.01 ～ 10.00		設定した加速度 (G) を超えると警告 音を鳴らします。
サンプルレート	3		1 ～ 99		1 秒あたりのサンプリング数を設定し ます。
スイッチ押下画面閾値 しきいち	1		1 ～ 99		設定した時間以上に REC スイッチが 押されると、記録を開始します。
スピーカー出力	ON		ON ・ OFF		スピーカーから出力するかを ON ・ OFF で指定します。
④拡張設定	初期値		設定項目		備考
車速パルス設定	0		1 ～ 99		車速を車両から取得する場合に設定 します。
エンジン回転数設定	0.0		0.0 ～ 99.9		エンジン回転数を取得する場合に車 両に合わせて設定します。
速度超過閾値 (低速)	50		0 ～ 360		速度超過警告を鳴らす閾値です。
速度超過閾値 (高速)	90		0 ～ 360		速度超過警告を鳴らす閾値です。
連続速度超過時警報 間隔	60		0 ～ 999		速度超過時の警告間隔を指定します。
加速警告設定	6		0 ～ 360		秒間の加速度警報閾値 (km/s ²) を 設定します。
減速警告設定	9		0 ～ 360		秒間の減速度警報閾値 (km/s ²) を 設定します。
アイドリング警報 時間	180		0 ～ 999		アイドリングがこの時間を超過すると 警報を鳴らします。
アイドリング警報 間隔	180		0 ～ 999		連続アイドリング時の警報間隔を指定 します。この間隔で警報が鳴ります。

以上の必要項目を変更し、⑤「設定データ保存ドライブ」で SDHC カードを接続したドライブを指定し【書き込み】をクリックして下さい。

設定を行なう登録号車と SD カードリーダーに差し込んだ SDHC カードの登録号車が一致しているかを確認後、【OK】をクリックして操作を確定して下さい。

G センサ補正方法

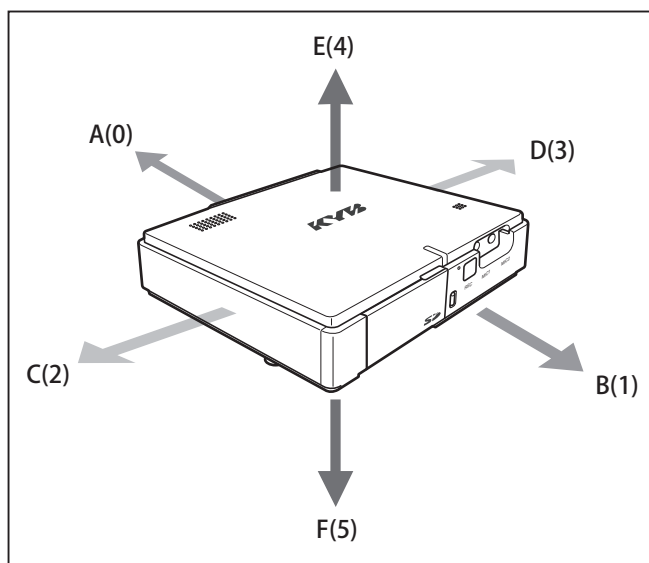
本体の傾きに合わせて G センサを補正する方法について示します。

G センサで検出できる 6 方向のうち前方方向と底面を「車載機設定」における「基本設定」の「設置方向設定」にて指定することで、XYZ 全ての方向を補正します。

たとえば、右図の A を前方として指定した場合について説明します。

AB を軸とした回転は地球の重力を検出することにより、360 度の範囲で補正可能です。

CD を軸とした回転は、± 85 度まで補正可能ですが、60 度を超える傾きの場合は前方として指定する面を見直してください。



注意：

● EF を軸とした回転だけは補正できません。進行方向に対して左右方向の傾きが生じないように設置してください。

設置方向と設定値

前方方向	底面	設定値		
A	C	0	2	
A	D	0	3	
A	E	0	4	※
A	F	0	5	
B	C	1	2	
B	D	1	3	
B	E	1	4	※
B	F	1	5	
C	A	2	0	
C	B	2	1	※
C	E	2	4	※
C	F	2	5	

前方方向	底面	設定値		
D	A	3	0	
D	B	3	1	※
D	E	3	4	※
D	F	3	5	
E	A	4	0	
E	B	4	1	※
E	C	4	2	
E	D	4	3	
F	A	5	0	
F	B	5	1	※
F	C	5	2	
F	D	5	3	

※：この印の付いた設置方向につきましては、SDHC カードを落下や紛失する恐れがありますので、他の設置方向をお勧めいたします。

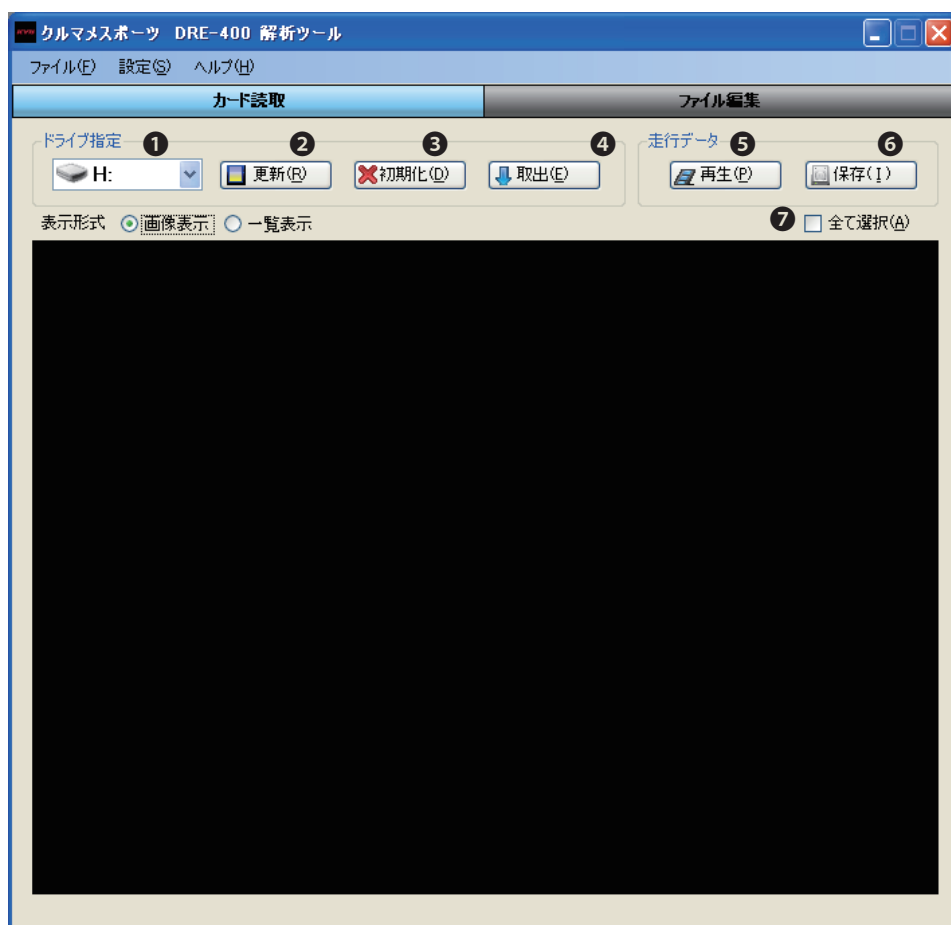
記録したデータの読み込み

記録データファイル読込

「カード読込」画面ではドライブレコーダー本体で記録された画像ファイルを表示し、必要なファイルをコンピューター内に保存します。

SD カードスロットまたは USB ポートに SD カードリーダーを接続し、画像ファイルが記録された SDHC カードを挿入して下さい。ビューアソフトを起動して「カード読込」画面内左上の「ドライブ指定」で SDHC カードの入っているリムーバブルディスクを選択し、【更新】ボタンをクリックしてカード内容を読み取り、【保存】ボタンをクリックしてパソコンに保存して下さい。

表示されているリストまたは画像の中で希望のデータをダブルクリックすると、SDHC カードから直接再生されます。



- ① ドライブ指定
読取先ドライブを指定
- ② 更新
カード内容を読取り
- ③ 初期化
ドライブ指定した SDHC カードを初期化
- ④ 取出
カードリーダーなどからカードを取り出し
- ⑤ 再生
選択した走行データを再生
- ⑥ 保存
選択した走行データをパソコンに保存
- ⑦ 全て選択
画面上の全ての走行データを選択または選択解除

注意：

- 動画のデータは非常に大きく、要領の大きい SDHC カードを利用する場合、読込されるデータ量が非常に多くなります。そのためデータのコピーには時間がかかります。またコピー側のパソコンのハードディスクにも十分な空き容量が必要です。空き容量が少ない場合は、読込中にエラーになるケースがありますのでご注意ください。パソコンのハードディスクには 50GB 以上の空き容量があることをお勧めします。
- SD フォーマッタがインストールされていない場合、初期化ボタンは無効になります。また、SDHC カードが指定したドライブに入っていない場合も初期化ボタンは無効になります。

記録データファイル選択

「ファイル編集」画面では読み込んだ記録をリストまたはサムネイルにて表示して選択できます。
また、条件にあったデータのみ検索してリストにて表示することができます。

「ファイル編集」をクリックして下さい。

検索を行う項目のそれぞれの値をプルダウンリストから選択します。

【検索】 ボタンをクリックします。

- ① 記録日時
設定した記録日時を検索
- ② 映像の種類
動画：動画データを検索
静止画：静止画データを検索
- ③ 録画時間
設定した録画時間（総時間）を検索
- ④ 最高速度
設定した最高速度を検索
- ⑤ 最大加速度
設定した最高加速度を検索
- ⑥ オプション情報
車両 ID：入力した車両情報に含まれるテキスト（英数日本語文字）を検索
メモ：入力したその他に含まれるテキスト（英数日本語文字）を検索

メイン画面について



① ファイルメニュー [P.20 ～ P.22 参照] データに関する情報の編集、データファイル名の表示を行います。	⑥ 加速度メーター [P.25 参照] 記録した車の加速度をXYZ 方向で表示します。
② 日時表示 [P.25 参照] データを記録した日付と時刻を表示します。日付と時刻は、GPS のデータより自動的に記録されます。	⑦ 車両情報 記録した走行距離などを表示します。
③ グラフ用ボタン [P.25 参照] これらのボタンを押し、グラフの横軸設定を変更できます。	⑧ 再生用ボタン [P.24 参照] これらのボタンを押し、再生する画像の再生、停止、一時停止、巻き戻し、早送りができます。
④ 速度メーター [P.25 参照] 記録した車の速度を表示します。	⑨ グラフ表示 記録した速度、エンジンの回転数、加速度、時間をグラフとして表示します。
⑤ 回転数メーター [P.25 参照] 記録したエンジンの回転数を表示します。	⑩ 画像表示 記録した動画または静止画を表示します。 ※記録が 1 画面なら 1 画面、2 画面以上で 4 分割画面となります。

再生画面について

「カード読取」から選択した画像ファイルおよび記録したデータを再生表示します。



操作・表示一覧

① ファイルの最初へ移動	⑨ データ記録の日时表示 ◆日時は GPS データより自動的に取得します
② 停止	
③ 一時停止	
④ 再生	⑩ グラフ設定ボタン ◆グラフの横軸の調整をします
⑤ ファイルの最後へ移動	
⑥ スピードメーター表示 ◆「設定メニュー」の「アプリケーション表示設定」にて最高速度を変更できます	⑪ 車両情報 記録した車の車両登録情報、走行距離などを表示します。
⑦ 回転メーター表示 ◆「設定メニュー」の「アプリケーション表示設定」にて最高回転数を変更できます	⑫ メイン画面 ※記録が1画面なら1画面、2画面以上で4分割画面となります。
⑧ X 軸（前後）・Y 軸（左右）・Z 軸（上下）の加速度を表示します。	⑬ 速度（赤色）、前後 X 軸（青色）・左右 Y 軸（緑色）上下 Z 軸（橙色）の加速度、回転数（水色）を表しています。これらの情報を時系列グラフで表示します。

① ファイルの最初へ移動

このボタンを押すと、データの再生中または一時停止中に関わらずデータの最初に戻ります。

② 停止

このボタンを押すと、再生を停止します。次に再生ボタンを押すとデータの最初に戻り再生を始めます。

他のデータの選択や他の動画データを開くときは、このボタンを押して停止状態して下さい。再生中や一時停止中には、他のデータは選択できません。

③ 一時停止

このボタンを押すと、再生を一時停止します。再生を押すと一時停止は解除されます。

④ 再生

このボタンを押すと、再生を開始します。一時停止中に押すと、一時停止を解除します。

⑤ ファイルの最後へ移動

このボタンを押すと、データの再生中または一時中に関わらずデータの最後に移動します。

⑥ スピードメーター表示

走行データで記録されている速度を表示します。但し、表示できるのは「アプリケーション設定」で設定された速度の最高値までです。

⑦ 回転メーター表示

走行データ記録されている回転を表示します。但し、表示できるのは「アプリケーション設定」で設定された回転数の最高値までです。

⑧ X 軸・Y 軸・Z 軸の加速度を表示

走行データ記録されている X 軸、Y 軸および Z 軸への加速度を表示します。但し、表示できるのは「アプリケーション設定」で設定された加速度の最高値までです。

⑨ データ記録の日时表示

走行データの記録された日時を表示します。日時のデータは GPS にて受信したデータを使用します。

GPS が受信出来ていない場合、正しく表示されないことがあります。

⑩ グラフ設定ボタン

グラフの横軸を 30 秒 (30 sec.)、4 分 (4 min)、12 分 (12 min) または 1 時間 (1 hour) で設定します。Max を押すとデータの総再生時間に合わせます。+を押す度に横軸を拡大していきます。-を押す度に横軸を縮小していきます。

⑪ 車両情報

走行データ記録されている車両情報 / 再生時間 / 総再生時間および現在までの走行距離 / 総走行距離を表示します。

GPS が受信出来ていない場合、正しく表示されないことがあります。正確な移動距離や時間を表示するわけではありません。

⑫ メイン画面

選択した走行データの動画、静止画または動画ファイルを再生します。

複数のカメラで撮影された場合は、画面が分割されて表示されます。

QVGA で記録されているデータはこの画面では VGA の画面サイズに合うように引き延ばされて表示されます。

⑬ グラフ表示

走行データ記録されている速度、加速度、回転数を時系列グラフで表示します。速度は赤色、前後 (X 軸) の加速度は青色、左右 (Y 軸) の加速度は緑色、上下 (Z 軸) の加速度は (橙色)、エンジンの回転数は水色で表示されます。

本体の設置方法により、X、Y、Z 軸が異なりますので、ご注意下さい。

グラフの横軸は、グラフ設定ボタンを設定できます。縦軸は「アプリケーション表示設定」の【車速メータ】と【回転メータ】と同じ値が設定されます。

トラブルシューティング

ビューアソフト起動時のトラブル

Windows が起動しません。

- Windows 起動時はパソコンの USB ポートに接続してある SDHC カードリーダーの設定済み SDHC カードを抜いて下さい。

画像ファイルのトラブル

データ読込中にエラーが発生しました。

- LOG フォルダ、もしくは SD_Video フォルダ内に OKB もしくは 5KB 程度のサイズが含まれている可能性があります。これらのファイルを削除した後に再度データ読込を行って下さい。

画像ファイルが保存されていません。

- 電源ケーブルとドライブレコーダー本体の接続を確認して下さい。
- SDHC カードのフォーマットと初期設定を行なって下さい。「SDHC カードの初期設定について」[P.10] を参照して下さい。

映像が表示されません。

- DirectX がインストールされているかどうかを確認して下さい。
DirectX インストールの確認方法
パソコンデスクトップの【スタート】→【ファイル名を指定して実行(R)】→「dxdiag」と入力→【OK】をクリック
DirectX 診断ツールのウインドウが開きますので、【システム】にて【DirectX バージョン】が 9.0a 以降になっていることを確認して下さい。
インストールされていない場合は、付属 CD-ROM よりインストールして下さい。

画像に欠けている部分がある。

- CCD カメラは非常に精密度の高い技術で作られていますが、構造上画素欠けの部分が生じる場合があります。これは故障ではありません。

画面全体が白くなる。または黒くなる。

- 暗い場所から明るい場所へ急に移動した場合や、明るい場所から暗い場所へ急に移動した場合など、明るさの変化が大きいと、正常に画像の記録ができないことがあります。

画像のピントが合っていない。または画像が不鮮明である。

- 取付説明書をご覧になり、カメラを正しく取り付けてください。

信号機の青や赤ランプが速く点滅している画像がある。

- LED ランプを使用している信号機は人間の目では認識できない速さで点滅しています。撮影カメラで記録されたファイルではその点滅が記録される場合があります。この現象は故障ではありません。

用語解説

用語	解説
フォーマット	SD カードなどの記憶媒体を指定した配列や形式に初期化すること。
ドライバ	周辺機器を動作させるためのソフトウェア。
加速度 (G)	一定時間内の速度の変化の割合をあらわします。ドライブレコーダーでは内蔵の加速度センサーにより、衝撃や急加速・急ブレーキ・急ハンドルを数値として記録し、その情報より運行状況や運転特性を判断することができます。

GNU LGPL 適用ソフトウェアにつきまして

このビューアーソフトの中には、以下の GNU Lesser General Public License（以下、「LGPL」といいます）の適用を受けるものが含まれております。

お客様には、LGPL の条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

パッケージリスト

glib audit-libs
beecrypt glibc
glibc-devel gmp
libtermcap libusb
libuser neon
utempter
ffmpeg.exe

ソースコードのご使用にあたって

著作権について

本ソフトウェアの著作権は、ソースコードに記載の著作権者に帰属します。

LGPL のライセンスに関する宣言書（抜粋）

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public

Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

お問い合わせ窓口：046-268-4262

9：00~12：00、13：00~16：00（土日祝日、弊社休業日、年末年始夏期休暇除く）

発売元：

KYB 株式会社

電子機器事業部

東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 8F

Tel：03-3578-1209

URL：http：<http://www.kyb.co.jp/kurumame/>

サポートカルテ

KYB ドライブレコーダービューアースフトに関するお問い合わせ窓口：046-268-4262

お問い合わせの前に以下の情報をお調べ下さい。

ご使用のパソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけ詳しくお知らせ下さい。

- ご使用のパソコンの種類：
(メーカー・型番等)
- メモリの容量と CPU のクロック数：
(コントロールパネル→システム→全般タブ内)
- OS 名とバージョン：
(コントロールパネル→システム→全般タブ内)
- その他接続されている周辺機器名：

- インストールされているウィルス対策ソフト名とバージョン：

- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
(より正確・迅速にお答えするために、できるだけ詳しくお知らせ下さい。)

製品保証書

品 名	ドライブレコーダービューアースフト	☆お客様	ご住所	〒
☆製造番号			お名前	(フリガナ) 様
☆お引渡し日	年 月 日		電話	
☆保証期間	年 月 日から 1 ヶ年			

お客様へ：☆印欄に記入のない場合は無効となりますので、製品保証書をお受け取りになる時に、「製造番号」・「お引渡し日」・「保障期間」・「販売店」が記入してあることを確認して下さい。

この保証書は、カヤバ工業株式会社の定める製品保証規定（下記）に基づいて無料修理を行なうことをお約束するものです。

お引き渡しの日から上記保証期間中に故障が発生した場合、本書を添えてお買い上げ販売店へ修理をお申しつけ下さい。

☆販売店

店名	
住所	
電話	

保証責任者 カヤバ工業株式会社 電子機器事業部

製品保証規定（よくお読み下さい）

- ドライブレコーダービューアースフト取扱説明書に従った使用状態で故障した場合、製品保証書に明記の期間内に故障した場合に無料修理させていただきます。お買い上げ販売店にお申しつけ下さい。
- 保証期間内でも次のような場合は有料修理になります。
 - 製品保証書のご提示がない場合。
 - 製造番号、お引渡し日、保証期間、お客様名、販売店の記入がない場合。又は字句を書き替えられた場合。
 - お買い上げの後の輸送、移動時の落下等お取扱いが不適切なため生じた故障及び損傷。
 - 使用上の誤り及び製品保証書記載の販売店または弊社が指定する修理取扱所以外による修理・改造・分解調整、弊社指定部品以外での部品交換等をされた場合。
 - 地震・落雷・風水害・火災・その他の天変地異、異常電圧、第三者による行為での故障及び損傷。
 - 接続しているほかの機器、及び不適切な使用に起因して生じた故障及び損傷。
 - 付属品等の紛失による交換。
- 製品保証書は日本国内においてのみ有効です。
- 製品保証書は、再発行いたしませんので大切に保管して下さい。

※本製品の故障又は使用により生ずる直接、間接の損害及び付随的損害については弊社は一切その責めを負わないものとします。

製品保証書は、製品保証規定に基づき無料修理をお約束するものであり、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

無料修理期間経過後の修理・交換等につきましてはお買い上げの販売店にお問い合わせ下さい。

(IE-KM-06-003-01)